

# 2020年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2019年7月30日@ステーションコンファレンス東京

7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

# 1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

# 業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,389	1,408	+19	+1%
税引前四半期利益	352	370	+18	+5%
四半期利益	285	301	+17	+6%
cf. 通常の営業活動 からの利益	353	385	+31	+9%

# 為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,430	1,408	-22	+41	+3%
税引前四半期利益	372	370	-1	+20	+6%
四半期利益	302	301	-1	+17	+6%

主要通貨	(A)Q1 FY18 レート	(B)Q1 FY19 レート	変動率
US\$	¥109.53	¥109.67	-0.1%(円安)
EURO	¥129.01	¥122.87	+4.8%(円高)
BAHT	¥3.39	¥3.47	-2.4%(円安)

# 特殊要因等について

## 包括利益計算書

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY
収益合計	1,399	1,424	+25
費用合計	1,047	1,054	+7
減価償却費	68	84	+15
その他の費用	301	286	-15
税引前四半期利益	352	370	+18

新リース会計基準の適用などにより減価償却費が増加した一方で、その他の費用が減少した。

# ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	913	938	+25	+3%
税引前四半期利益	174	173	-1	-1%
cf.通常の営業活動 からの利益	178	182	+3	+2%
cf.通常の営業活動 からの利益率	19.5%	19.4%	-0.1pt	

\*外部売上の数値

# ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

## Q1 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	958	938	-20	+45	+5%
税引前四半期利益	173	173	-0	-1	-1%
cf.通常の営業活動 からの利益	182	182	-0	+4	+2%

\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	466	460	-6	-1%
税引前四半期利益	190	205	+14	+8%
cf.通常の営業活動 からの利益	188	212	+24	+13%
cf.通常の営業活動 からの利益率	40.3%	46.0%	+5.7pt	

\*外部売上の数値



# 情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

## Q1 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	461	460	-2	-4	-1%
税引前四半期利益	206	205	-1	+15	+8%
cf.通常の営業活動 からの利益	212	212	-1	+24	+13%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

## ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	696	704	+8	+1%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	719	704	+23	+3%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

## メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	217	233	+17	+8%

## 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	239	233	+22	+10%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

## エレクトロニクス関連 マスク& blanks / HDD基板

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	354	370	+16	+4%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	370	370	+16	+5%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

映像関連製品  
カメラレンズほか

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	111	90	-22	-20%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	91	90	-20	-18%

\*外部売上の数値

# 貸借対照表

(億円)	Q4 FY18	Q1 FY19	QoQ	
非流動資産	2,558	2,764	+206	1
流動資産	5,081	4,868	-213	
資本	6,277	6,113	-164	2
非流動負債	244	334	+90	
流動負債	1,118	1,185	+67	
合計	7,639	7,632	-7	

1 新リース会計基準の適用及び新規設備投資等による固定資産の増加 +249億円

2 自社株買いにより自己株式が増加 (-186億円)

# キャッシュフロー計算書

(億円)	Q1 FY18	Q1 FY19	YoY
営業活動によるCF	258	354	+97
投資活動によるCF	-322	-109	+213
財務活動によるCF	-169	-377	-208
現金及び現金同等物 期末残高	2,262	2,738	+476

1 東芝メモリへ出資（270億円）した前期と比べ支出が減少

2 自社株買い（191億円）により支出が増加\*

\*2019年10月末までに上限600億円の自社株買いを実施予定

# 2020年3月期 Q2予測

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	増減	増減率
売上収益	1,420	1,432	+12	+1%
税引前四半期利益	384	370	-15	-4%
四半期純利益	312	299	-14	-4%

- ✓ ライフケア事業は眼内レンズでのM&A効果やコンタクトレンズの好調が続くことなどにより前期比増収を見込む。
- ✓ 情報・通信事業はカメラレンズなどの減収を見込むものの、半導体ブランクスがEUV用途にけん引され拡大、前年同期並みの売上を見込む。



1. 決算概要

**2. 情報・通信事業概況** [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

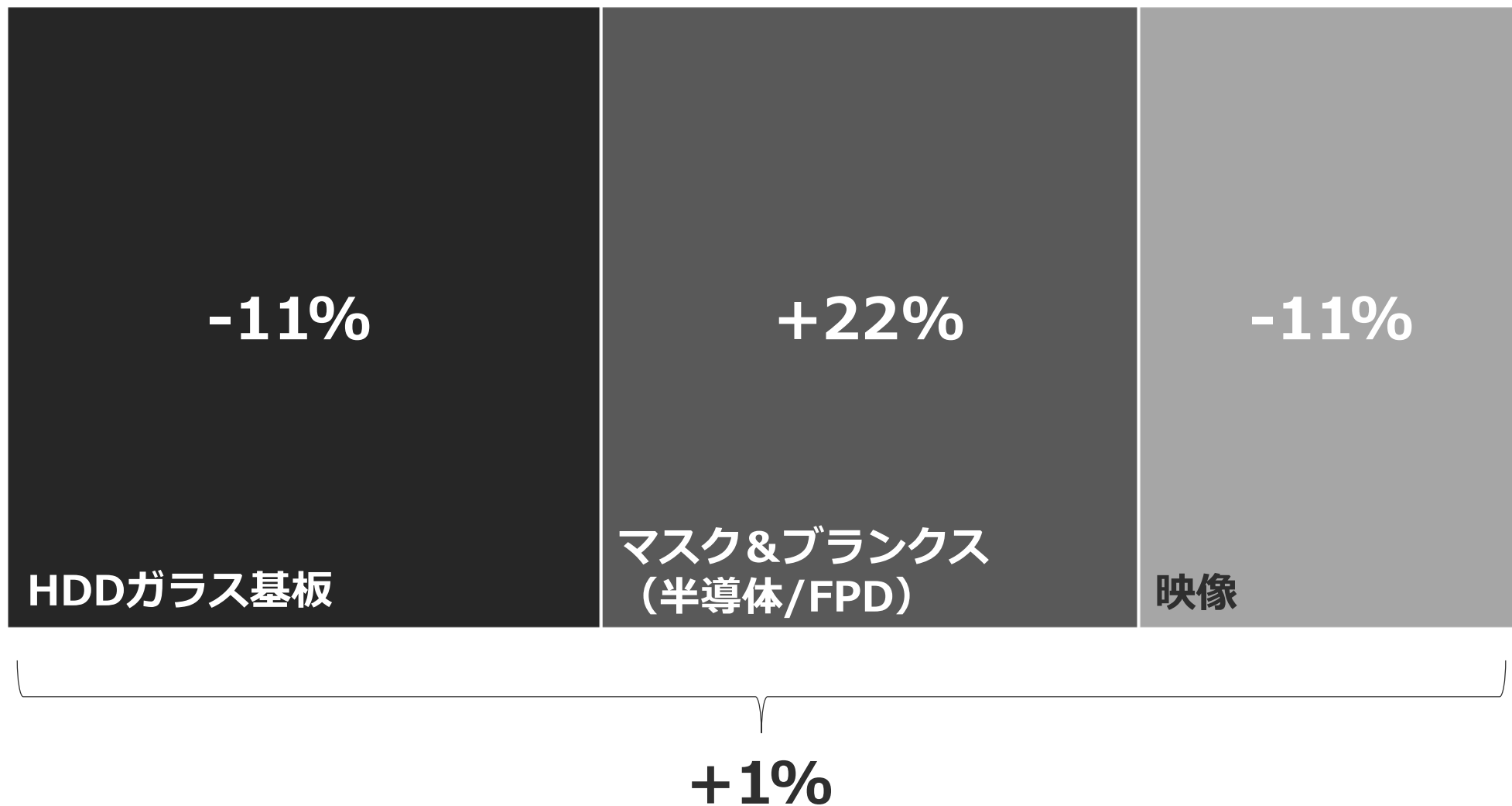
3. ライフケア事業概況

4. 総括

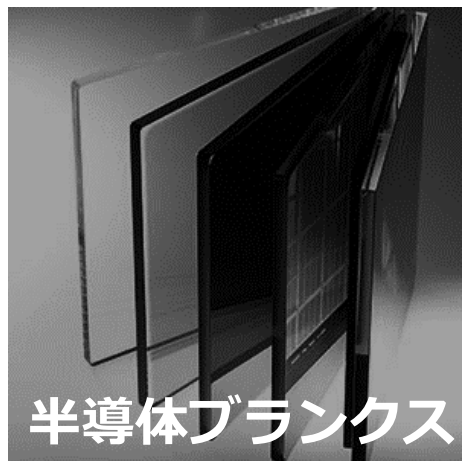
5. 質疑応答

# 情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



# 製品別概況



## 足元

オプティカルが7nmのテープアウトにけん引され成長。EUVは売上が倍増、全体の29%に

## 今後

EUV露光機の順調な増加や活発な開発を背景に引き続きEUVブランクスの成長を見込む



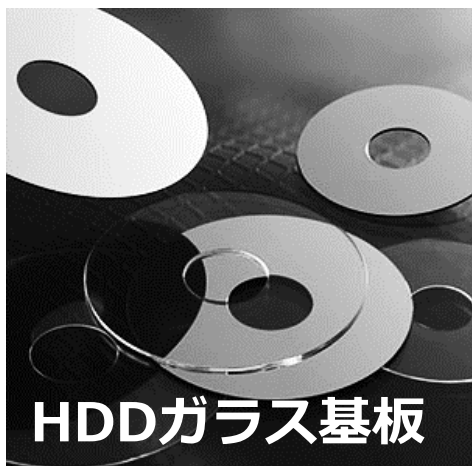
## 足元

FPDマスクの中国市場での販売が好調に推移。半導体用途は外販マスク市場の縮小により減収

## 今後

今後さらなる成長が予測される中国市場におけるビジネス拡大を図っていく

# 製品別概況

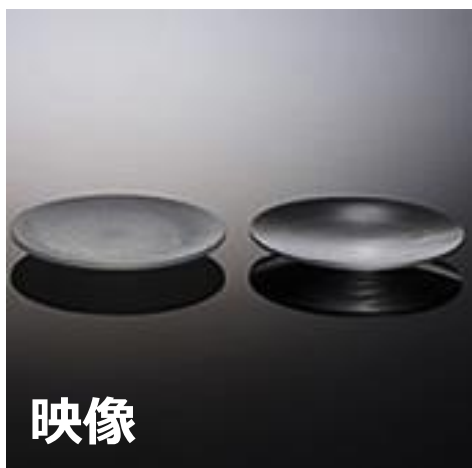


## 足元

データセンター需要の停滞により3.5"の成長がやや鈍化。2.5"の縮小を補えず全体で減収

## 今後

データセンター向け3.5"はQ2より徐々に需要回復を見込む（兆しあり）



## 足元

従来より減少傾向にあったコンデジに加え、交換レンズも製品市場が停滞し、減収

## 今後

継続的に新規用途/販売チャネルの開拓を行う

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

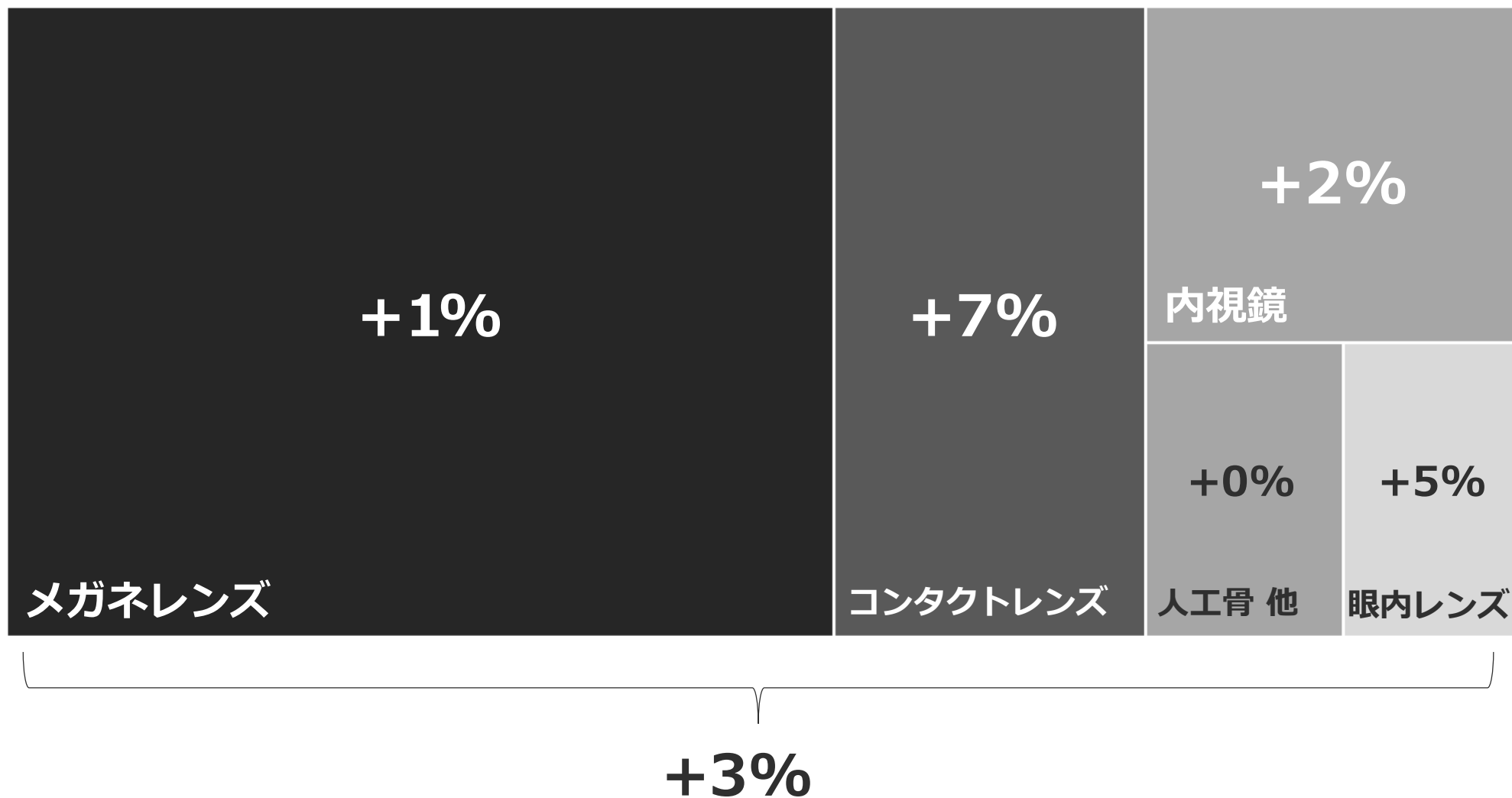
**3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**

4. 総括

5. 質疑応答

# ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



# 製品別概況



## 足元

チェーン小売への拡大を図るなか、キャパ不足が続き、微増収にとどまった

## 今後

本年11月にベトナム第2工場竣工  
北米を中心にチェーン攻略を進める



## 足元

集客増や顧客単価UPにより増収。中国・九州の小売を買収。期末店舗数 315店（新規1/閉店1 M&A込）

## 今後

継続的に集客増と単価UPを図っていく

# 製品別概況



## 足元

中国の代理店での余剰在庫水準が減少し、同市場での販売が再開。全体で増収に転じた

## 今後

年度末までに中国での余剰在庫を解消を目指す。買収した会社の統合プロセスを推進



## 足元

新製品の発売などによりアジアや欧州での販売が好調に推移したものの、米州は納入時期のズレなどにより減収

## 今後

新製品を継続的に投入し、売上成長を加速



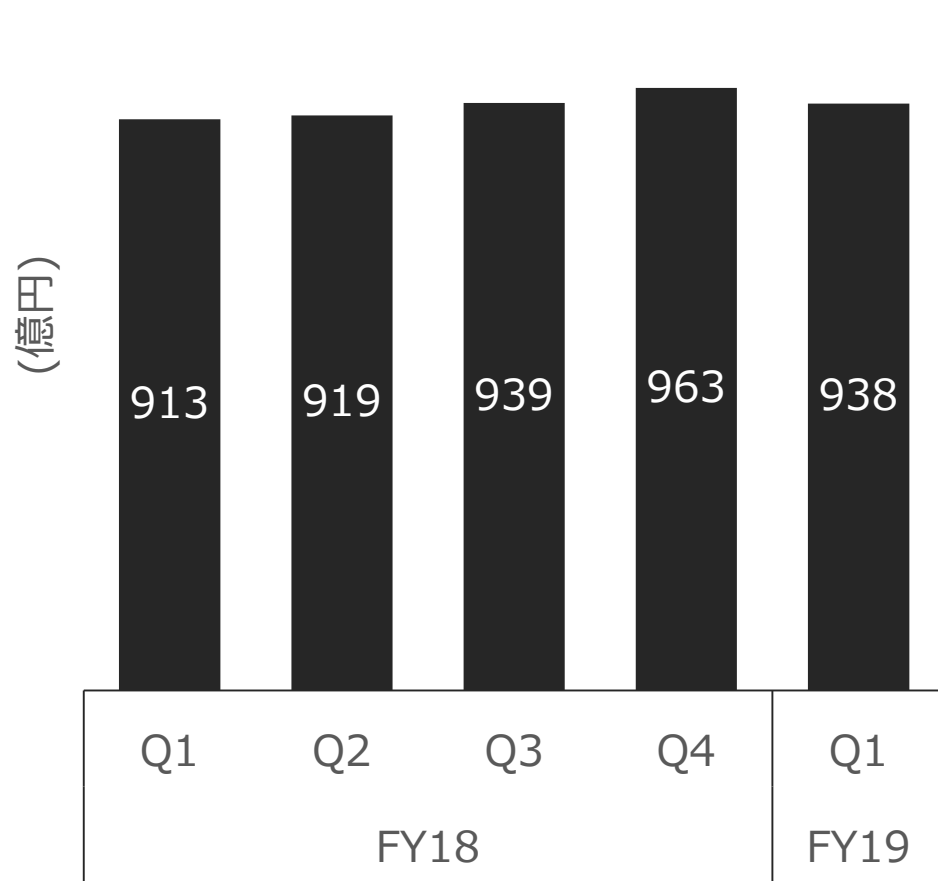
1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

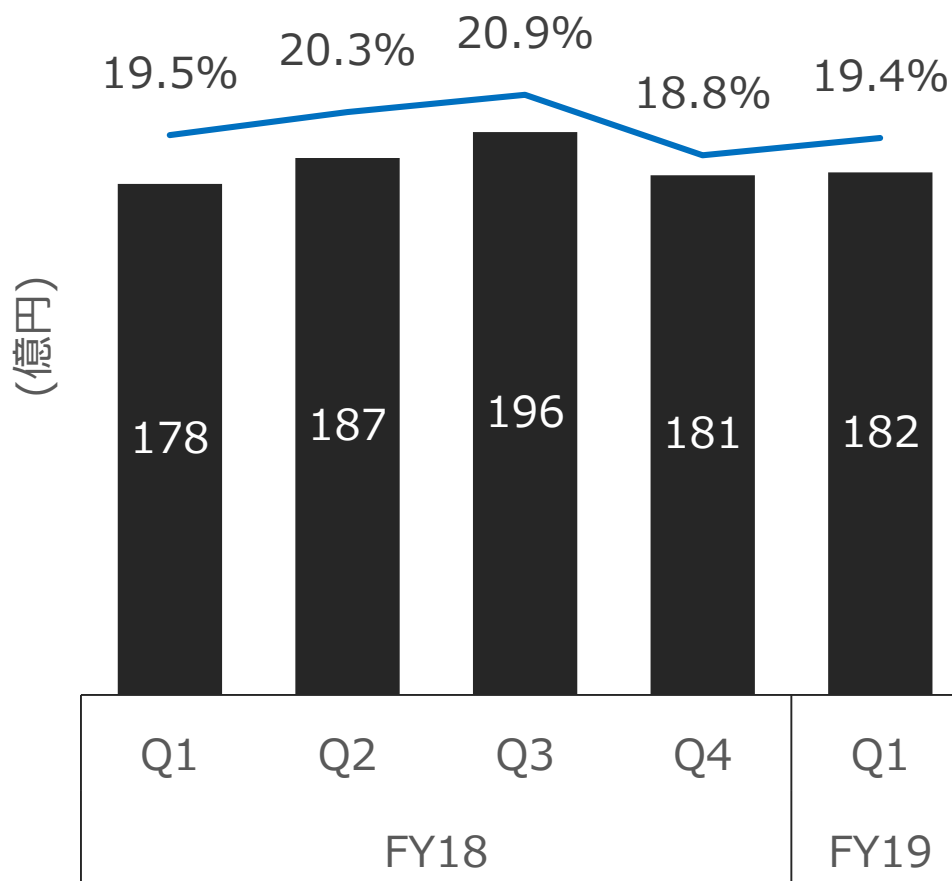
# Appendix

# ライフケア事業 QoQ推移

売上収益



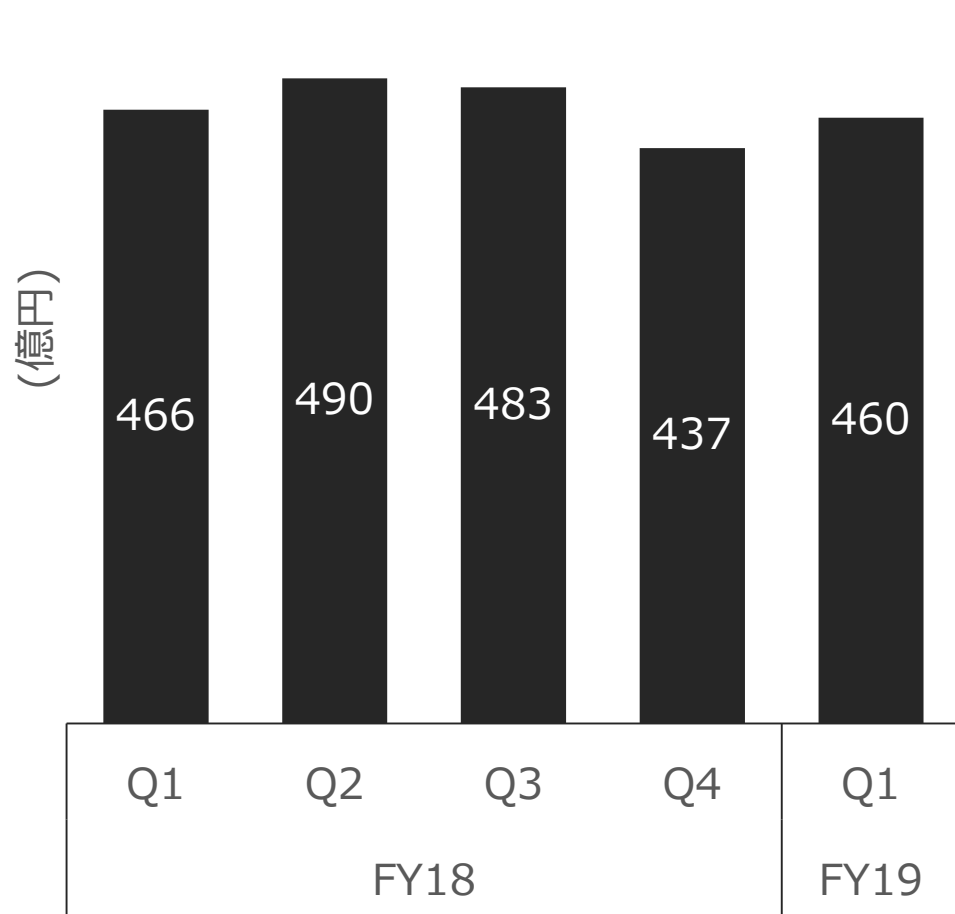
cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



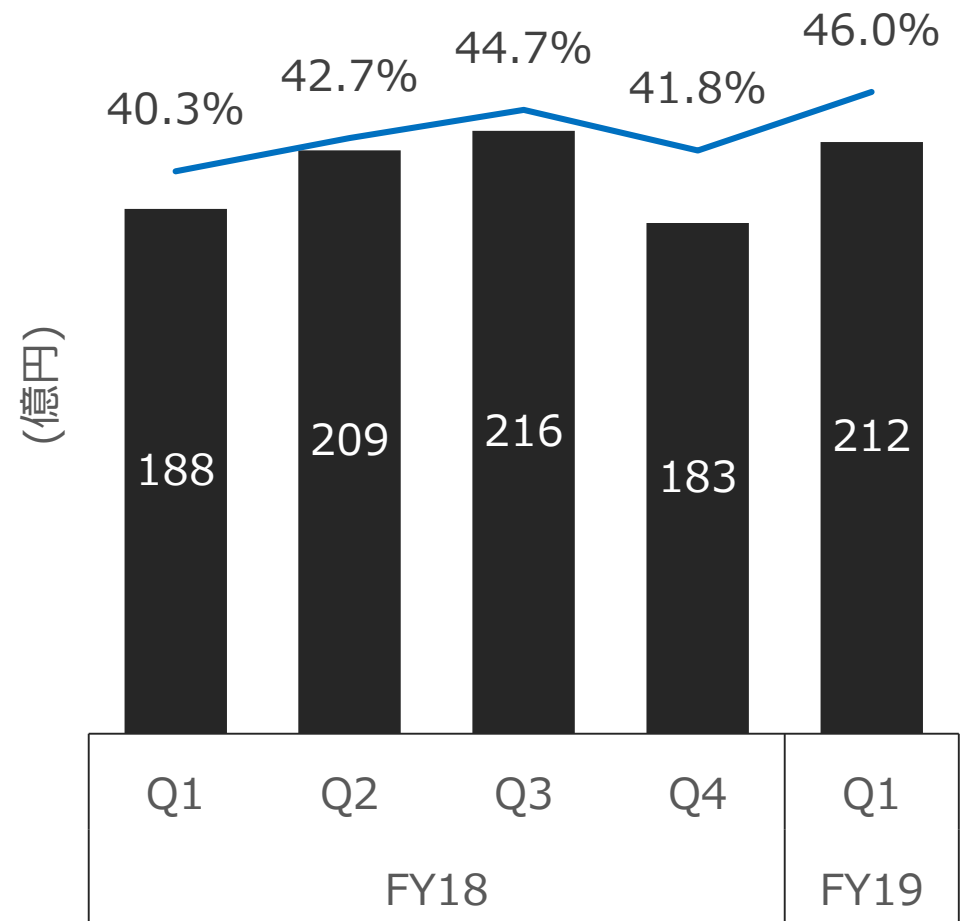
\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 QoQ推移

売上収益



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



\*外部売上の数値

# Topics

## ESGコミッティが始動

- ✓ HOYAとしては初めてのESG部門「ESGコミッティ」を組成、2019年8月より活動を開始予定。
- ✓ HOYAグループのESG活動やこれに係る開示の強化に努めていく。

## 暗所視支援眼鏡が天草市で全国初の補助金対象に

- ✓ 夜盲症により暗所で物が見えにくい方向けの暗所視支援眼鏡「HOYA MW10 HiKARI」を2018年春に発売。
- ✓ 2019年7月より、全国で初めて熊本県天草市にて福祉用具の「日常生活用具」として補助金の支給対象となり、メーカー希望小売価格395,000円（消費税別）を、1割負担の39,500円（消費税別）で購入可能に。
- ✓ 今後も他の自治体等への横展開を図る。



# 本資料の表記について

---

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q3, Q4, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

# 免責事項

---

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。